

近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

AKINDO委員会

さんぽう

三方よし

第20号

2002/2

CONTENTS

特集 国際AKINDO会議2001

時代を変革するAKINDO 多角的な企業の価値を求めて …… 2~4
セッション「三方よし」 …… 5~7

「ビューティフル・ビジネスプランコンペティション」結果報告 …… 7
「三方よし研究所」設立へ …… 8
てんびん棒 …… 8



NPO三方よし研究所設立を表明したAKINDO会議

セッション「三方よし」文化とビジネス

ビジネスプラン表彰式



会場内で花を添えた近江商人の食事展示

三方よし「三方よし」は近江商人共通の経営理念。「売手よし 買い手よし、そして世間よし」の精神で地域社会に大きく貢献した。本紙は近江商人を代表する理念を主題としている。

国際AKINDO会議2001

時代を変革するAKINDO 多元的な企業の価値を求めて

2000年に開催された全国AKINDO会議の成果を受け、さらに国際的な視点から、時代を変革するAKINDO像をさぐり、同時に多元的な企業の価値が何であるかを問うシンポジウムが近江八幡市のホテル「ニューオウミ」を中心に延べ2000人の参加を得て10月23～24日の両日開催された。基調講演をはじめ「社会とビジネス」「個人とビジネス」「文化とビジネス」のセッションなど盛りだくさんのプログラムは、何れも好評で、会議の側面的なテーマであった「三方よし」が、まさに国際語となる勢いであった。本号では、会議の内容の概要を紹介する。

基調講演

二十一世紀のAKINDO精神

松下電器産業株式会社 代表取締役社長

中村邦夫氏

〔中村邦夫氏の略歴〕

昭和14年(1939) 滋賀県彦根市に生まれる。彦根東高校を卒業、昭和37年(1962) 大阪大学経済学部卒業後、松下電器産業入社。米州本部長(兼)アメリカ松下電器社長、AVC社社長を経て、平成12年6月松下電器産業社長に就任

近江商人と松下精神

松下には近江商人の商いの理念に共通した視点がいくつもあります。「企業は社会の公器」という考え方は、近江商人の「正当な利益を」と同様に、お金や経営資源は世間からの預かりものであり、公の心で、事業を通じて社会に貢献すると同時に、利益は目的でなく、社会にお役立ちした結果としての報酬であると考えています。また、「社員稼業」は「始末してさばる」と似た考え方であり、近江で重んじられている「才覚と工夫」は、松下でも「衆知を集める」ということで様々な知恵を集めて創造をおこなおうとしてきました。

環境の変化に対応した革新と守るべきもの

二十一世紀は、すべてのもの

に、変化が求められています。今、必要な考えや行動が、「革新」と「創造」であり、環境の変化に対応して、常に革新を図るための第一は、成功体験からの脱却です。成功した仕組みは、逆に衰退の原因になり、環境が変わって、素早く対応しなければいけない時、かつての成功体験がその対応を躊躇させるといいうケースは数多く見受けられます。組織が永続するためには、その変化に対応する「自己革新」が必要であり、このことは歴史が示しています。

一方で、「守るべきもの」もは、経営理念であり、「ビジョナリー・カンパニー」という古い名著には、「企業は、一般的に栄枯盛衰、寿命があるが、アメリカで五十～六十年成功を持続する企業には、必ず、お客さまと従業員と社会から理解され支持される『経営理念・ビジョ

松下の進むべき道 「破壊と創造」

当社は一九一八年(大正七)の創業以来、松下幸之助が、その時代の要請に応えるべく、社会へのお役立ちの姿をビジョンとして掲げ、事業発展にまい進してきました。

人々に豊かな電化生活を提供することにはじまり、高度成長を経て、世界の様々な産業・くらしの中に総合的にエレクトロニクス事業で貢献していくというビジョンを進めた。そして産業構造が大きく変わる中、さらなる社会貢献を果たすためには、新たな松下を創生する必要が出てきました。そこで、本年より、「創生21」という中期計画を策定し、構造改革と成長戦



略に取り組んでいるのです。
これまでの大量生産・販売の仕組みで拡大してきた成功モデルが、時代に適合しなくなり、私が「超・製造業」と呼ぶ二十一世紀型の新しいビジネスモデルに変らねばなりません。その取組みの基軸は、「破壊と創造」なのです。

二十一世紀初頭に目指す「超・製造業」は、従来の概念を超え、サービス業と製造業が融合したような企業のイメージです。お客様の求めるサービスを起点にビジネスを展開し、真に「お客様第一」の実現を目指す「お客様価値創造企業」がそ

の姿です。そのための「破壊」は、「事業構造改革」であり、経営理念以外、変えるべきものはすべて変えるという決意で取り組んでいます。

「創造」とは、「成長戦略」のことで、お客さまにとつての価値を生み出さないもの、競争優位にないものは、思い切って「捨てる」「減らす」「やめる」ということで、ピラミッド型組織構造は、破壊されねばなりません。そして、ITを駆使して、新しい「フラット&ウェブ」型構造に変え、経営責任者のマインドと企業風土を若々しく革新し、「権限委譲」していこうとして

います。

スピーディーな意思決定、組織としての俊敏な対応を可能とする「フラット&ウェブ」型の構造で、全員でお客様の価値を創造し、それを最大化しなければならぬのです。

いつも普遍であるべき「経営理念」

会社はなんのために存在するのか、どのような目的で存在意義を示すのか。これをはっきりと示すのが「経営理念」だと思います。「経営理念」が揺らぐようでは、成功を収めても長続きはしません。

松下電器には、創業者の「事業を通じて、人々のくらしを豊かにし、社会の発展に貢献する」という経営理念と、「その考えに共鳴して集い、これを信念としてお互いを高めあう」という、社員のあり方・行動の進め方があります。これらは、いつの時代も変らないものであり、創業者松下幸之助の考え方の結晶なのです。

松下電器を興した幸之助は、業容が拡大するなかにあつても、「船場」のAKINDOの世界で体得したことを「戒め」とし、「松下電器が将来いかに大をなすとも、常に一商人たる

の念を忘れず」と記しています。規模が膨らみ、成功体験が増えるほど、社員の心も傲慢になりやすく、衰退の原因になるといふことを、幸之助は見越していたのではないかと思います。

商いの精神を堅持する一方で、幸之助は、早い時期から企業の社会性・透明性を重視し「全員経営」を目指し、一九三二年（昭和七）、「社会の公器として豊かな生活の実現に貢献する」という松下電器の使命に目覚めたのでした。

「革新」と「理念」で拓く二十一世紀

「革新」と「理念」は、それぞれが対をなし、これら二つが刺激しあうところから二十一世紀を拓く起業家精神、「AKINDO精神」が生じるのだと思います。

近江は、「三方よし」や「始末してきばる」の精神を滋養として、数々のベンチャースピリットが育つてきました。そうした土壌を未来に引継ぐことは、日本全体が活気にみなぎるために欠かせないことであり、原動力になります。経営理念をしっかり持つた上で、常に自己革新を図りつつ、実践に移す人間の意志が企業経営には必要です。

IT革命により、現在の競争原理の基本は、「規模」ではなく「速さ」に変わり、今まで以上に、経営資源としての時間の重要性が高まってきました。この「時間」「スピード」をキーワードに、「創造的時間を生み出す」ということを、二十一世紀のAKINDOに伝え、その精神を発揮するには、松下幸之助が常々口にした「日に新たな」という松下幸之助の言葉が必要でないかと思えます。

松下幸之助は、経営理念を変のものとして、我々に徹底し、製造業の遺伝子を植え付けてくれましたが、その経営理念をいつの時代にも輝かせるためには、「日々、時代の変化とともに、自分も新たなものに変えねばならない」と説いていました。まさに、イノベーションの考え方でした。

そういう意味を込めて、「日に新たな」の言葉を「破壊と創造」として、実践しているつもりです。松下がいかに大をなすとも、これからも二十一世紀のAKINDO精神、ベンチャースピリットを忘れないようにしたいと思います。

基調講演

ビジネスの成果をどうとらえるか

社会倫理説明責任研究所(英国) 所長 リチャード・エバンス氏

今我々が社会倫理説明責任と呼んでいるシステムは、企業によってもたらされた社会に対しての便益のすべてを利害関係者に報告することです。このシステムが開発されてから、ここ十年の間に欧米の会社が多数この手法を取り入れています。

企業が社会倫理説明責任を果たすようになった結果、お客さまに対して、また従業員、社会、



【リチャード・エバンス氏の略歴】

経営学修士取得後、メーカーで販売とマーケティングを経験した後、フェア・トレード(取引先=主に開発途上の国々の生産者、に公正な配分を与える事業)を先導しているトレードクラフト社の会計責任者となり、全てのステークホルダー(顧客、取引先、従業員、地域社会等)に対する年間の社会監査報告書を発展させた。その後、通称「アカウントアビリティ」と呼ばれる社会倫理説明責任研究所(The Institute of Social and Ethical Accountability)を設立し、社会監査の方法論の標準化と企業の社会監査報告に対する表彰制度を伴った活動を展開している。

投資家、株主に対して自分たちの責任を意識するようになりました。なぜなら企業はビジネスというものが、政治にも、環境にも、社会にも、個人個人の社会生活にも大きな影響を与えることを知っているからです。

九月十一日、同時多発テロが発生しました。ニューヨークの世界貿易センターの二つのビルは深く分断された世界の象徴で

した。一方で膨大な物質的な富を享受している何百万人の人たちがあり、一方で原材料と労働を提供しながらも、我が子に十分に食べさせられない人たち、この二つのグループの分断です。あの同時多発テロ以降、企業のやることはビジネスだけではよいとは言えなくなってきました。社会責任を十分に果たしている企業もありますが、しかし多くの企業が利益を追求することによって、こんにちの環境破壊をもたらしているのです。社会倫理説明責任とは、いくつかの方法で企業の価値を附加するものです。第一にブランドの価値を差別化し増進。二番目は忠誠心のあるお客様を作り維持することです。忠誠心あるお客さまは口コミで自社の商品を宣伝し、自社の宣伝マンになってくれるのです。このように社会的インパクトに注目すること

は、従業員の会社に対する忠誠心の育成にもつながります。

社会倫理説明責任の必要性を説明する事例として、イギリスのある銀行は、自社の活動を六四の指標にてらして報告書を作成しています。測定しています。

経済的な資料のほかに社会や環境に対しての説明です。費用と労力をかけ、相手の知らないことをリスクを取ってまで知らせる理由は会社の責任を前向きに、そして社会の価値にあつたカタチで報告しているという評価を得るためです。もう一つ重要なのは、信頼性のあるフィードバックを提供することです。経営者が自分の取る結果がどういうものであるかに注目すること、また意思決定に関して全体的、包括的な基準を作るという

ことです。

社会倫理説明責任の考え方で重要なのは、企業としての目的、そして倫理的な価値観です。多くの企業が間違えているのは、外部の価値観に頼ろうとしていることです。自分たちの信念、理念をもう一度考えた上で、体系的にモニターし、社会、環境、そして経済に対するインパクトを評価しなければなりません。ビジネス活動のすべての側面を入れなければなりません。すべてのステークホルダー、つまり顧客、従業員、サプライヤー、企業活動に影響を持つ地域の人たち、我々のプロセスの核心は、企業が状態を知るにはこういう人たちの視点を入れることなのです。

社会倫理説明責任研究所について

社会倫理説明責任研究所(Institute of Social and Ethical Accountability)、通称「アカウントアビリティ」は、一九九六年に国際的会員組織として設立。イギリスが事務局。世界中の組織(企業、NPO、政府等)のアカウントアビリティ(説明責任)の実行推進とその改善を行っている。また、企業やNPOの社会的責任や倫理的行動を支援することを目的としている。

現在、「アカウントアビリティ」は大学研究者、NGO(非政府組織)、コンサルタント、企業、個人、社会監査の専門家、五四〇〇名で構成されている。

※アカウントアビリティ

説明責任、行政や企業、NPOなどが事業内容や収支などを社会に説明する責任をいう。

session セッション

三方よし



基調講演を受けて「社旗とビジネス」「個人とビジネス」「文化とビジネス」のテーマ開催された分科会は翌日のゼネラルセッションで統括して報告された。以下に文化会進行者からの報告の要旨を紹介する。

社会とビジネス

◎「三方よし」のビジネスモデル

末永氏は、全国各地域のニーズにこたえるビジネスの実践、さらに後継者をそだて支援するベンチャー育成の基盤づくり、また情報交換のためのネットワークシステム、あるいは行商を支援するための講の仕組みや債権確保の仕組み等を近江商人のスローガンとして示された。

これらの理念や仕組み、ノウハウ等を組みあわせながら、表にあらわれない人助け、というミッションを達成してきたのが近江商人である、という前提があり、その後、紹介された「UD21」、「かんでんエルファーム」、「コーポラティブバンク」の事例は全てが「三方よし」のビジネスモデルとして定義された。

これら総括すると「明確な理念を持ち、その理念を代々継承する」「地域資産の棚卸しと活用」「パートナーシップ、パーティシペーション、参画の重要性」「人を育てる」。「明確な評価・認定の基準をつくり、言語化する」「目標の設定と情報発信」「社会説明責任、情報公開、地域NPOとの連携」「認証基準の継続的な見直し」の8項目にまとめられる。

個人とビジネス

◎直結する生産者と消費者

いま起業、ボランテア、NPOにしてもすべて働き方の基準や動機づけ、あるいは仕事のスタイルが、どんな個人中心になってきている。一般の消費者を考えると、ここでも大きなパラダイムがあり、存在するのは消費者というマスではなく、一人一人が顔の違う個人である。しかも消費者は受動的な概念を越えて、消費や投資という回路を通じて社会をデザインしてゆくアクターとして出現してきた。

生産者と消費者の直結が進み、中間産業は衰退するとの議論があるが、だからこそ、知的編集ができる新しいタイプの中間産業にポテンシャルとニーズがある時代になる。

サラ・オールセンさんは、シカゴのシヨアバンクという一種のコミュニティバンクの取組みを、澤登さんは消費者ニーズの商品化の問題、西山さんは、インターネットで「空想生活」というサイトの運営について紹介があった。会場からの「日本には昔から生業という概念があるが、それが話の中間領域につながるのではないか」という指摘は、私たちが求めてゆく方向の一つのヒントでもあった。

文化とビジネス

◎よい倫理から生まれる経済発展

哲学者のオドノヒュー先生は「グッド」がビジネスに関わるには、何が正しく、何が間違っているのかという判断、一般の問題と個別の問題をつなぐ必要が生じた時であり、よい倫理は常によい経済発展をもたらすとの提起があった。

マレーシアで政策にたずさわるレオンさんは、Vision Twenty Twentyという政策から、「我々は倫理的な社会をつくりあげ、従来型自由競争に対するアンチテーゼとしてのやさしい自由主義と、経済的行為における公正性を達成する」という理念に基づいた事例を紹介された。

富田氏は、内部的なマネージメント課題とビジネス関係の対応という両面から考えてゆくことが必要になると指摘された。

西尾氏は、他の文化を理解する前に、私たちは自分たちの文化をどの程度理解しているのか、他を見ながら自身を見直す必要がある、という反省的な視点からの提言として、具体的に「おかげさま」という言葉で表現された。

二十一世紀AKINDOの課題

それぞれの分科会の報告は紙面の都合で割愛することとなったが、分科会やゼネラルセッションの座長および今回の全体企画をご担当いただいた方々のメッセージを紹介する。

不易流行を重視したい

関西経済同友会代表幹事 サントリー(株)副社長 津田和明

「世間よし」は今でいう地域貢献で、土地の振興のために寄附をしたり、人を育てたり、文化振興に非常に貢献しています。藩境を越えてゆく手段として、近江商人がくれば地域が栄える。といった信用、伝説を築きあげてきたのでしよう。

近江商人には、不易、永遠に通ずる商売の根本・理念といったものと同時に、時代時代に合わせて変化していった姿が浮彫りになり、八方ふさがりの日本経済に、何か殻がやぶれるようなヒントがあるのではないのでしょうか。

企業競争が激しくなると、社会貢献は企業にとって大きな課題になるでしょうが、社会貢献というのは近江商人が言うところの陰徳であるべき部分があると思います。

ビジネスの実践から文化をつくる

滋賀経済同友会代表幹事、新江州(株)代表取締役社長 森健司

いかにして儲けるかということではなく、なすべきことを自らに問いなおし、ビジネスを見つけないことが「世間よし」だと思ひ、必要なビジネスを発見し、世間にうったえかけ、このことがビジネスにならないかと考えてきました。具体的には売上の三分の一を未来予見型のソフト販売という目標を設定し、エコライフスタイルのシュミレーションとして、エコ村ネットワークを立ち上げました。

循環型社会は、大量消費を否定している中で、経済規模は収縮しますが、「収入半分、支出半分、しあわせ倍増」を、エコ村のキーワードにしました。無条件で世を救う、ということが「世間よし」ではないのでしょうか。商人が哲学を持ってビジネスをしていった場合、消費者の言うことを一方的に聞くだけではなく、新しいあるべき姿にむかって、ビジネスを実践しながら文化をつくってゆくことができるでしょう。

商人は新しいメディアエーター

(株)ニバーサルデザイン総合研究所長 赤池学

近江商人は情報をにぎって成功しましたが、情報を意識して作ろうとした人間たちに結果として負けたのではないかと直感を持ちます。さらに、情報を持つてモノを動かすマネービジネスをやっていた段階で、次世代型のモノづくりの開発投資を、おざなりにしたことが、近江商人が衰退した原因だと考えられます。

これからの時代には、本業のようなもので、ちよつとしたコストをかけただけでリニユアールできるものを見直すというような取り組みが重要になってくるでしょう。地域の良質な資産をそろばんしてゆくことが重要だと思います。

地域の良質な資産をそろばんする

東北芸術工科大学教授 竹村真一

「そろばん」はアカウンティングではなく、シミュレーションだったと草柳さんがおっしゃいました。こういうふうな投資をすればどうなるか、それが世間、社会貢献にどのような影響があるか、ということを経営者が見出すという事です。現実を知るだけじゃなく、こうでもあり得るのじゃないかという可能性をビジネスアライズする。この可能性というのは個人のなかにしか無いわけですが、その可能性を多くの人が共有できるようにビジネスアライズすることによって、カンパニー、志を共有して住もうという活動が可能になってきます。そろばんや近江商人の才覚も非常に現代的なコンセプトでもあるのです。現代的な話、あるいは抽象的な分析と三方よしのコンセプトは、非常に色濃くつながっており、そのへんを見据えてゆく作業が必要になると思います。

複雑なことを複雑に語れ

リベラルアーツ研究所 犬塚潤一郎

「陰徳善事」「三方よし」は、言葉としては簡単だけれど奥行きが深く、構造的なチカラがあります。近江商人を継承し、多様な文化・コミュニケーションといっしょにビジネスを続けてゆくには、このように言葉を構造的に使えるチカラが必要ではないかと思ひます。これからの商人には「複雑なことを複雑に語る」技術を身につけてほしいです。最初の複雑さは現象あるいは概念における複雑さです。次の複雑とは簡単な言葉に複雑な意味を内包させるということです。

甦ってきた三方よし

千葉商科大学政策情報学部 井関利明



「三方よし」あるいは近江商人の考え方は、二十世紀型経済が発生し成長し支配するなかで忘れられていったのですが、今、甦ってきました。つまり未来はずっとむこうの過去と似ているところがあるのです。私は新しいビジネス論が、新しい経済学が、あるいは新しいマーケティングの理論がこれから成立するだろうと思ひますが、その時間違いなく異なった立場のものが関わりあひながら、新しい価値を創造するという「三方よし」が、そのなかに位置づけられるだろうと思ひます。

国際的に浸透した「三方よし」

多摩大学経営情報学部教授 望月照彦

未来にむかって活動をつづけるための指針は「究める。Mission」「培う。Sustainability」「拓く。Innovation」の言葉で、商人の行動規範はこの五つの言葉によってスパイラルに表現されるのであろう。そしてこれは「三方よし」の中身であり、二十一世紀に続けてゆかなければならないキー概念になるものだと思います。



利益の前に義を重んじる新しい「三方よし」

リチャード・エバンス

「三方よし」を知った時、心のふるさとに帰ったような気がしました。それは欧米でもビジネス活動は利益を追求することが支配的だからです。今回の会議では、ビジネスと経済に対してまったく新しく大胆な、利益の前に義を重んじる新しい「三方よし」ビジョンが提示されました。近江にきて特に印象深かったのは、ビジネスを社会や文化の脈絡のなかで語るということでした。この素晴らしい「三方よし」の考えを世界にむけて発信してください。

世界へ発信「三方よし」



グローバルな世界がコミュニティの時代

ステファン・レオン
(マレーシア国際戦略問題研究所)

マレーシアは日本に学べと言う「Look East」政策をとってきましたが、「三方よし」の精神は、マレーシアの新しいコトバとして組み入れられてゆくのではないかと思います。

今やグローバルな世界がコミュニティになってきました。コミュニティつまり世間のことでありますが、この世間を考えますと、単に売り手、買い手、社会というだけでなく、常に私たちの関心や憂慮を求めている部分があります。それは環境です。ですから世間と言う時、グローバルな社会とともに、すぐそばにある環境、植物や動物等も入れなければならぬ。これらも世間の一部であると思います。

日本に必要な想像力を育てる教育

パトリック・F・オドノヒュー
(元筑波大学教授)

若者の表彰式は感激しました。商人をめざす若者たちは自分の能力と努力で新しい考えを作ろうとしますが、これには教育が大切です。日本の教育には想像力を育てるという意味で改革が必要です。いまの世間は昔と違い世界につながっています。ですから私たちは個人ではなく「世界よし」を考えなければなりません。滋賀で働いている外国の人たちも私たちのコミュニティなのです。



写真左より オドノヒュー氏、レオン氏、オールセン氏、エバンス氏

世界につながっています。ですから私たちは個人ではなく「世界よし」を考えなければなりません。滋賀で働いている外国の人たちも私たちのコミュニティなのです。

アメリカに持ち帰りたい「陰徳善事」

サラ・オールセン
(ソシアル・ベンチャーテクノロジー
& コンサルティング社長)

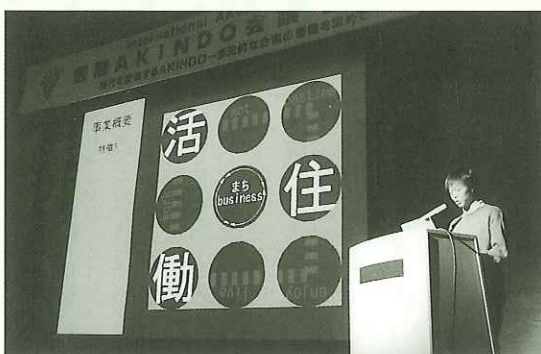
ビジネスの主流は情報技術ですが、一方で自然主義には限りがあるという認識が高まっています。この認識にたつと、ビジネスツールとしての財務会計のシステムがあります。しかし財務会計だけでは人間、コミュニティといった価値は説明できませんが、ビジネスでは、これらすべての価値を説明する責任があるのです。

企業には倫理的な理念が必要ですが、そういったビジョンを近江商人は陰徳善事というカタチで持っていました。この考えをアメリカに持ち帰りたいと思います。

ビューティフル・ビジネスプランコンペティション

最優秀賞に滋賀県立大ACT (大学生の部)、京都府立商業高校、(株)京芸堂 (高校生部の部) に決定

次代の社会の主役である若者立ちの夢を、近江商人の代表的理念である「三方よし」を具現化したビジネスプランを提案してもらい、その優劣を競う本イベントには、全国から52チームの応募があり、最終審査の結果、最優秀賞に決定したチームのプレゼンテーションが、国際会議で行われた。



社会消費分野ビジネスの先進モデル県を期待する

審査委員長代表 町田洋次
(ソフト化経済センター理事長代行)

アイデアを発酵するにはそれ相応の時間を要するので、4ヶ月という慌ただしい期間で大変だったと思うが、第一回としては大成功だったと思う。先生方の丁寧な指導も成功の要因であった。応募テーマを見て「ビューティフル」とは、環境、地域活性、介護、文化、教育のことをと認識していることがわかりました。作品内容のレベルが予想以上に高かったことは驚きです。このような事業は今後も継続開催してほしいものです。

先端性を評価

滋賀県立大アクト

斬新性が乏しいという意見もあったが、商店街活性化には当たり前だが大切だ。新しい人間関係の形成、近隣大家族のコミュニティづくりを志向している点で先端性があった。

困難なテーマへの挑戦を評価

株式会社 京芸社

伝統工芸技術を使った新製品開発は大企業でも難しいテーマであるにも関わらず果敢に挑戦したことを高く評価したい。WEBで意見を広く求めたアイデアは良かった。

▲プレゼンテーションを行う滋賀県立大アクト

国際AKINDO会議の成果をつなぐために

AKINDO会議が

「三方よし研究所」設立へ

平成四年に設立された滋賀県AKINDO委員会には、具体的な事業展開を行う組織として「AKINDO会議」が設置されています。AKINDO会議は、平成三年に開催された「国際AKINDOフォーラム」に企画運営に関わった県内の若手経済人や地域活動などで活躍する人を母体として発足し、これまでに、近江商人の顕彰・人材育成・近江商人ネットワークづくりなどの関するさまざまな事業を展開してきました。毎年好評の近江商人ふるさと探訪ツアーの実施や、近江商人活躍の土地との交流事業などを積極的の展開してきました。

今回の国際会議開催に際して、近江商人共通の理念である「三方よし」の精神をつうじて持続可能な企業や社会に姿に反映できることを願っていました。が、会議の結果、洋の東西、時代の古今を問わず、企業や企業人の在るべき姿は唯一「ビューティフルビジネス」つまり、企業や企業人の社会貢献や倫理的行動の重要性が確認されました。つまり、二十一世紀に持続可能な企業のあり方は、「三方よし」の理念に通じることが再確認されたのです。私たちAKINDO会議はボランティアと

してAKINDO委員会に参加してきましたが、その間、それぞれの企業活動や地域社会の中で、近江商人の経営理念を学び、継承し、社会への波及に努力してきました。こうした活動をより社会でお役にたてる活動として展開していきたいということから、「三方よし研究所」の設立に至りました。

一月二十八日に設立総会を開催し、NPO法人申請を行いました。今後AKINDO委員会同様にご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理事長 出家舗 美嗣

設立趣旨

近江商人の特性を現代的な観点から顕彰し、企業及び事業者の活動が信頼される社会の実現を図るため、これからの企業経営や事業運営における社会貢献や倫理的行動を支援していくことを目的とし、この継続的な支援と併せて人材の育成、監査機能や企業情報開示の改善を推進する事業等を行い、もって公益増進に寄与することを目的とします。

■「三方よし研究所」への参加のお誘い
会員資格などは左記のとおりです。多くの皆様の加入をお待ち申し上げます。
正会員

入会金 二万円、年会費 一万二千元
賛助会員

入会金不費、年会費 三千元
団体賛助会員

入会金 一万円、年会費 一六千円以上

■お問い合わせ先

彦根市鳥居本町六五八

「三方よし研究所」事務局

電話 〇七四九一三二一〇六二七

商いの心 学んでほしい

小さな文化を作る会が「商いの心、いろはカルタ」を作成

近江商人に理念をテーマに活動を展開してきた近江八幡に本拠を置く「小さな文化を作る会」(代表千賀伸一)では湖国21世紀記念事業協会の支援のもと、新しい商いのヒントになるような「商いの心、いろはカルタ」を制作。カルタ文は、広く公募し、寄せられた五百七十五点のはか、近江八幡商業高校の生徒や近江八幡市立資料館館長江南洋氏らの協力で四十六句を決定し、それぞれの句には、吉本興業所属で滋賀県出身の漫画家木川かえる氏のイラストがつけられている。制作を企画した千賀さんは「常備薬のように、家庭に一セット置けば、心の糧になります。カルタで近江商人の開拓精神をいま一度考えてほしい」と普及に努めています。できあがったカルタに登場する主人公は、木川さんのトレードマークのカエルでコミカルに描かれ、「こどもから大人まで楽しんでほしい」と願う木川さんの思いがこめられています。

限定一〇〇〇セット作成し、一セット二五〇〇円(送料・税込)で希望者には頒布しています。

詳しいお問い合わせ、購入申込みは

千五二一〇八九三 近江八幡市桜宮町二〇七―三

小さな文化を作る会(〇七四八―三三三―一〇六四)

あて

郵便振込口座番号 〇一〇五〇三一六七四九一
加入者名 小さな文化を作る会

てんびん棒

平成4年から始まった滋賀県のAKINDO事業の成果を求めて開催された「国際AKINDO会議」は紙面で充分にご報告ができなかったものの、世界各地から近江商人に「三方よし」の理念は世界各国で共通の将来への羅針盤となる行動規範であることが一致するという大きな成果を見ることができた。

会期中、イギリスのリチャード・エバンス氏は「社会説明責任というお土産をたずさえてやってきましたが、日本から三方よしという素晴らしいお土産をいただいたことに感謝する」という言葉はとても印象的であり、大きな勇気を与えてくださった。

新年早々から、企業の不祥事が多発し、自己本位の行動が横行している。こうした時に、AKINDO事業を推進してきたAKINDO会議メンバーが「三方よし研究所」を設立した。今や世界に通じる「三方よし」を一層浸透するべき活動の展開を目標に、現代的な観点で近江商人の経営理念をあらゆる社会に浸透する意気込みである。何卒格段のご支援をいただきました。(一)

